

2022 年度協会賞審査結果について（通知）

私立大学図書館協会会長校 西南学院大学図書館
館長 古田 雅 憲
私立大学図書館協会協会賞審査委員会
委員長 木下 和 彦
(慶應義塾大学信濃町メディアセンター)

2022 年度協会賞の推薦について、協会賞審査委員会(2022 年度第 2 回:2023 年 1 月 26 日開催、第 3 回:2 月 27 日開催)および東西合同役員会(2022 年度第 2 回:2023 年 3 月 3 日開催)において協議いたしましたところ、下記のとおり決定いたしましたのでお知らせいたします。

なお、協会賞の表彰は、2023 年 9 月開催の第 84 回総会・研究大会にて行われる予定です。

記

1) 推薦の概要

- ・ 種 別 第 2 部（経営管理業績・協会活動業績）
(5)の 2 図書館・情報学・大学図書館発展への寄与部門
- ・ 被推薦者 早稲田大学図書館、早稲田大学アカデミックソリューション
- ・ 業 績 『やさしい大学図書館員のサバイバルイングリッシュ』
早稲田大学アカデミックソリューション編
早稲田大学出版部 100p. 2022 年 6 月 10 日発行

2) 審査結果

採 択

3) 理由（採否の理由、付帯意見など）

『やさしい大学図書館員のサバイバルイングリッシュ』は、大学図書館のカウンター業務で英語を使った利用者対応に役立つ英語表現を、厳選してコンパクトにまとめた書籍である。

カウンター業務を大きく 5 つ（インフォメーション、貸出・返却、利用者サポート、ILL、レファレンス）に分け、中心となるフレーズを元に、応用へのヒントや、英単語の持つニュアンスの違いの説明など、単なる例文集にとどまらない工夫が随所にこらされている。さらには利用者との対応における心得や、英語でのコミュニケーションにおける注意点などにも触れられており、初心者向けカウンターマニュアルのような使い方もできるようになっている。また、グラフィックやレイアウトにも趣向が凝らされ、非常に読みやすく理解しやすい工夫がなされている。このように利用者支援の最前線に立つ現場のスタッフならではの発想が随所に見られ、図書館職員の主体的な取り組みが感じられるものとなっている。

本書の編者となっている早稲田大学アカデミックソリューションは、早稲田大学が 100%出資する「早稲田大学グループホールディング株式会社」の傘下子会社であるが、早稲田大学からは、早稲田大学アカデミックソリューション・学術リテラシー事業部（図書館チーム）に専任図書館員が出向しているという説明があり、加盟校と一体的に運営されていると考えられる。また本書には図書館長や専任図書館員も協力者として名を連ねており、早稲田大学と早稲田大学アカデミックソリューションが一体となって取り組んだ成果ということができる。

以上のことから、本件は協会賞審査の申し合わせ事項における採択可否ポイントの（ア）（オ）に該当すると判断し、協会賞に採択する。

以上